日本食品化学学会誌投稿規定

（2016年3月改正）

日本食品化学学会誌（Japanese Journal of Food Chemistry and Safety，略称：食化誌）—以下“学会誌”—は、学会員の食品に関連する化学物質の化学、安全、有用性、法律、経済、社会、歴史、行政、統計などに関する研究・調査結果を掲載することを目的とする学術論文誌であります。学会誌は、総説、論文、ノート、資料などの他、学会連絡事項等を掲載します。学会員の投稿原稿は複数の査読者の意見を基に編集委員が評価し、その採否等は編集委員会（以下、委員会）が行います。

学会誌には食品添加物、残留農薬あるいは食品汚染物の調査データであっても学術的価値のあるものは論文として掲載します。ただし、その際、調査数が少なかったり、系統だった調査が行われていない場合には単独またはノート扱いとする場合があります。また、動物実験のネグティブデータも掲載しますが、投与量や実験方法等が不適当なものはお断りする場合があります。

I 学会誌投稿等の原則

1 会則第9条第3項に基づき、学会誌へ投稿する者の筆頭著者並びに責任著者は学会員（個人会員および法人会員を所属名とする者）である必要があります。ただし、委員会が依頼した原稿は除きます。

2 会誌への投稿は有料とします。ただし委員会が依頼した原稿は除きます。なお、受付の順番を待つ、直近発行の学会誌掲載を希望される場合は、別途その実費を支払っていただきます。

3 原稿の種類は下記に示す通りです。論文およびノートは、他の出版物に既に発表、あるいは投稿されていないものに限ります。刷り上がりは本文和文で1ページ2段組みで26字×51行となります。従って1ページ当たり最大2652文字となります。

1) 総説（Review）：調査・研究論文の総括、解説等。編集委員会が依頼する場合もあります。
2) 論文（Regular article）：科学的調査・図表の報告。
3) ノート（Note）：研究の概略を迅速に発表、または部分的調査・研究の発表。
4) 資料（Research letter）：調査または統計等をまとめた報告（その結果を十分に論じたものは総説、論文とします）。学会員に参考となる記録をまとめ、学会員を役立つ行政、判例あるいは海外資料、委員会が提供する場合もあります。

内容によっては投稿料を求めません。

5) 会員の意見：食品化学に関する意見、掲載論文に関する意見等。原則として投稿料を求めません。

6) その他：編集委員会にご相談下さい。

4 投稿原稿執筆にあたっては、とくに形式を定めません。要は読み易く、文献として理解しやすい様式および記述をお願いします。ただし、論文のタイトルは、分かり易いものとし、原則として副題は付けないで下さい。引用文献の記述には注意して下さい。（2-3引用文献参照）

5 論文の投稿は、和文でも英文でも構いません。図表も同様です。投稿原稿には英文抄録を原稿として付して下さい。また、英文論文の場合は、英文抄録の和文も別添付して下さい。抄録は、一般学術雑誌の例で作成されて構いません。しかし本誌では英文投稿の場合、和文で会員が目を通すのに十分容易にように、また和文投稿ながら外国から文献請求があると予想される英文抄録の場合、これら抄録はより詳しく本文の主要図表も引用し、1～2頁分を使用しても構いません。

6 和文論文への英文抄録には、日本語訳を付けて下さい。ただし訳文の掲載は致しません。

7 投稿原稿には別に示す発表をA4版（縦）の大きさでコピーして、所定事項を記入の上、本文用と抄録用それぞれの原稿の表紙として付して下さい。所定事項をワープロで作成したものを表紙として使用しても結構です。

8 掲載に際し、軽微な修正は委員会の判断にご一任下さい。もし投稿原稿の意を害した場合、その旨を寄せていたければ次号に掲載します。

9 注意：二重投稿などの不正が疑われた場合には日本食品化学学会誌倫理調査委員会規則に基づき調査が行なわれ、その結果に基づき日本食品化学学会倫理規定に従う処分がなされることはあります。
II 投稿原稿の様式

1 原稿の記述方と構成

1) 総言、研究方法、結果など見出しの項にはI、II、III…の番号を付けて下さい。以下の番号には通例1, 2, 3 …, 1), 2), 3) …, (1), (2), (3) …として下さい。

2) 文献記述は次のことを守って下さい。

文献著、同一形式（Ⅰ－3）引用文献参照）に従って、原則として英文記載として下さい。

3) キーワードは英文、英文の両方で5句以内にお願い致します。

2 表および図

1) 原稿本文中に表、図および写真を挿入する箇所箇所、右横に挿入箇所を朱色で明示して下さい。

2) 図と写真のタイトルは図および写真の下とします。表のタイトルは表の上とします。なお、図表の下側に本文と併記しなくても理解できる程度に簡単な説明文が記述されていることが望ましいとします。

3) 表、図はそのまま最製版でプリントまたは書かせてください。なお、印刷に際して、改めてトレースする必要のある図・表については、その実費を請求いたします。

4) 図中の文字を活字で表したいときは、活字挿入希望を鉛筆で記して下さい。この場合活字挿入に必要な版下作成の実費は請求いたします。

写真：硬調をプリントした光沢仕上げのものを1枚ずつA4版の厚紙の上質紙に軽く貼り付けて下さい。必要があれば原稿には希望する縦尺を付記して下さい。カラー印刷等でアート紙の使用が必要な場合は実費を請求致します。

3 引用文献

1) 引用文献は1) 2) で出現順に示し、最後に一括して番号順に列記する。ibid. は用いない。

2) 欧文誌の引用: 例①のとおりとする。雑誌名は略記名の定められているもの以外略さない。略記名が不明の場合


3) 和文誌の引用: 誌名は原則としてヘボン式ローマ字書きで記述し、欧文誌名を持つものは、必要があれば丸括弧書きで付記する。正式な和文誌名のないものは欧文誌名を付けてはならない。また、欧文誌名は、その略記名が定められているときは略記としても良いが、略記名が不明の場合は略記せず完全誌名を記述する。例②を参考にする。なお、英文集名が変わらないものは誌名を落字書きし、ローマ字のあとに丸括弧に入れて翻訳標題を付記する。


4) 欧文誌、和文誌とも、巻数を表記しない雑誌では、巻数の位置に年号を大文字で記載する。

5) 欧文単行本の引用: 図書の一章又は一部分を引用する場合は例③、④、全体を引用する場合は例⑥を参照する。


6) 和文単行本の引用: 和文単行本を引用する場合、書名は原則としてヘボン式ローマ字書きで記述し、欧文書名を記す必要があれば翻訳し、ローマ字書きのあとに丸括弧に入れて付記する。翻訳本を引用する場合には、必ず著者及び原書名を記述し、翻訳者と翻訳者名を丸括弧に入れて付記する。図書の一章又は一部分を引用する場合は例⑥～例⑧を参照する。ISBNが判明しているものは記載する。ただし、和文原稿において、団体著、団体編者の場合や、書名がローマ字書きをするときに意味がわからなくなるものは、和文で記載してもよい。例⑥～例⑧を参照する。


例⑭ 厚生省生活衛生局食品化学課“第2版 食品中の食品添加物分析法”2000, p. 320-322.

7）官報、局長通知など
和文原稿では例⑦、⑧に従い引用する（英文にしない）。英文原稿では、例⑨～⑬を参考に引用する。
例⑦ 厚生省令第50号（1995）“既存添加物名簿に関する省令”平成7年8月10日。
例⑧ 厚生省生活衛生局局長通知“食品衛生法に基づく表示について”平成7年10月12日，衛食第186号（1995）。
例⑪ Notification No. 186 (Oct. 12, 1995), Director-General of Environmental Health Bureau, Ministry of Health and Welfare, Japan.

8）文誌及び研究所報告のローマ字書きと欧文名（丸括弧内）の例を下記に示す。
分析化学: Bunsei Kagaku (なし)
栄養学雑誌: Eiyogaku Zasshi (The Japanese Journal of Nutrition)
医学と生物学: Igaku To Seibutsugaku (Medicine and Biology)
医学のあゆみ: Igaku No Ayumi (Journal of Clinical and Experimental Medicine)
化学と工業: Kagaku To Kogyo (Chemistry and Chemical Industry)
化学: Kagaku (Chemistry), (Kyoto) 化学 (Kyoto) を科学 (Tokyo) を区別するため所在地を記入
日本農芸化学会誌: Nippon Nogeikagaku Kaishi (なし)
応用薬理: Oyo Yakuri (Pharmacometrics)
生化学: Seikagaku (なし)
食品衛生研究: Shokuhin Eisei Kenkyu (Food Sanitation Research)
薬学雑誌: Yakugaku Zasshi (Journal of the Pharmaceutical Society of Japan)
国立医薬品食品衛生研究所報告: Kokuritsu Iyakuhin Shokuhin Eisei Kenkyusho Hokoku (Bulletin of National Institute of Health Sciences)
日本醸造研究所雑誌: Nippon Shoyu Kenkyusho Zasshi (Journal of the Japan Soy Sauce Research Institute)
埼玉県衛生研究所報告: Saitamaken Eiseikenkyusho Ho (Annual Report of Saitama Institute of Public Health)

日本食品化学会誌（日食化誌）、Vol. 24(2), 2017

4）その他の留意事項
1）簡単な化合物名や動植物名は、文部省学術用語審議会編 学術用語集によります。用語集に記載のないものについては、広く学術的に用いられている用語を用いて下さい。ただし、字数の多い化学名、酵素名、外国地名、外国人名、および学術的に欧文の方が理解を得やすい場合は欧文で記載して下さい。
2）動植物名：片仮名書きとし、学名はイタリック体とします。ただし食品として用いる場合はこの限りではありません。動植物、食品名などを学名によらず英語名で図表などで一覧表としてデータと共に示す場合は必ず日本名を（）で併記する。
記して下さい。

3) その他ゴシック体（太い文字）、イタリック体（斜体）および学名などスモールキャピタルを必要とする場合は、その文字の下に朱書きでそれぞれ__________および__________を記入して下さい。

4) J-Stageに掲載の都合上、外字フォントは使用できません。

5) 投稿規程全般について不明な点、特殊な要望のある場合は学会事務局にお問い合わせ下さい。

5 投稿の際の注意

1) ヒトを対象にした研究論文は、ヘルシンキ宣言（2008年改訂）の方針に沿い、必要な手続きを踏まえていなければならない。特に臨床サンプルを扱う場合には、原則的に所属機関の倫理委員会などの公的審査会にて認められた研究内容で、同意書等を取得した上で得たデータでなくてはならない。

2) 動物を対象にした研究論文は、所属機関で規程される実験動物に関する管理と使用に関するガイドラインに従った旨を明記する。

III 投稿の方法

1) 投稿原稿正1部、副2部の計3部を下記宛先まで送付して下さい（副はコピー可）。投稿原稿は査読の便宜上A4用紙1ページにつき40字×35行を基本として打ち出して下さい。

宛先

〒158-8501 東京都世田谷区上用賀1-18-1
国立医薬品食品衛生研究所 生薬部内
日本食品化学学会編集委員会
TEL/FAX: 03-3700-9165 E-mail: skagaku@nih.go.jp

2) 投稿原稿在中と封筒に朱書きして下さい。

3) 受理決定後、事務局から電子媒体（CD-R又はUSB等）による原稿の提供を連絡致しますので、直ちに送付して下さい。この際原稿に意見を付す場合がありますので、電子媒体は修正の上で原稿（同様修正済み）と共に返送して下さい。

1) 電子媒体は原則としてMS-DOSフォーマットしたものをご使用下さい。

2) 電子媒体には使用したソフト、機種等の必要事項を記入した「ラベル」を貼って送付して下さい。

IV 掲載と費用

1) 校正は初校、必要あれば二校を著者が行います。ただし校正時の加筆はご遠慮下さい。

2) 掲載された論文については、下に定めた諸経費を請求します。

1) 基準投稿料：1編につき個人会員20,000円、法人会員および企業40,000円

2) 規定頁（5頁）を超えた場合は超過費を請求します。超過頁費（6,000円／1頁）は、19巻1号掲載分より実施しています。

3) カラー頁がある場合は実費を請求します。

4) ネージー：実費を請求します。

5) 別刷：実費を請求します。

6) pdf作成：基本作成費1,000円プラス1頁あたり1,000円

7) 上記費用は投稿原稿掲載通知後、明細書により請求します。

3) 掲載料の納入は原則として郵便振替をご利用下さい。（別刷代を除く）

郵便振替納入先：口座 009000-3-233186

加入者名 日本食品化学学会事務局
（通信欄に送金内容を記入して下さい。）

V 付記

1) 本誌に掲載された論文の著作権は、日本食品化学学会に属します。
<table>
<thead>
<tr>
<th>投稿原稿の種類</th>
<th>総説</th>
<th>論文</th>
<th>ノート</th>
<th>資料</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>投稿原稿の文字</td>
<td>和文</td>
<td>英文</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

(提出原稿に対応するものを〇で囲んで下さい。)

<table>
<thead>
<tr>
<th>投稿年月日</th>
<th>西暦年月日</th>
</tr>
</thead>
</table>

論文等の表題（和文及び英文）

著者名及び所属機関名（和文及び英文）

キーワード（和文及び英文）

ワープロの機種及び原稿に関する情報

ワープロの機種等必要事項：

原稿：枚 図：枚 表：枚 写真：葉

連絡者の住所（和文及び英文）

〒（）

機関名（和文及び英文）

TEL・FAX

TEL FAX

連絡者の氏名（和文及び英文）

本研究内容は、日本食品化学学会倫理規定に従って行われていることを確約します。

代表者署名

連絡者のE-mail

備考・関連事項など
日本食品化学学会理事及び監事（2016年1月1日～2017年12月31日）

理事長 手島 琢子 国立医薬品食品衛生研究所客員研究員
理事副会長 井上 克己 香川大学医学部教授
理事副会長 山崎 裕康 神戸学院大学薬学部教授
理事 坂山 浩 国立医薬品食品衛生研究所食品部長
理事 小川 義美 国立医薬品食品衛生研究所技術員
理事 奥村 克雄 三重大学大学院生物資源科学研究所教授
理事 小関 良宏 東京農工大学工学部生命工学科教授
理事 加藤 祐一 大阪市立大学医学部附属病院医薬品・食品機能評価センター特任教授
理事 合田 幸広 国立医薬品食品衛生研究所食品部長
理事 池村 英雄 サントリー食品インターナショナル株式会社取締役副社長
理事 中江 大 東京農業大学応用生物科学部教授
理事 中村 宏 信州大学薬学部薬学科副学長
理事 松浦 寿喜 武蔵川女子大学生活環境学部教授
理事 水田 英樹 大阪市立大学大学院医学研究科教授
監事 石井 里枝 埼玉県衛生研究所化学検査室長
監事 井之上 浩一 立命館大学薬学部教授

日本食品化学学会編集委員会（2016年1月1日～2017年12月31日）

編集委員長 合田 幸広 国立医薬品食品衛生研究所食品部長
編集委員 高山 浩 国立医薬品食品衛生研究所食品部長
編集委員 石井 里枝 埼玉県衛生研究所化学検査室長
編集委員 一色 弘司 一般財団法人日本食品分析センター学術顧問
編集委員 冨 高男 金城学院大学消費生活科学研究科客員研究員
編集委員 小川 雅芳 香川大学農学部応用生物科学科教授
編集委員 小関 良宏 東京農工大学工学部生命工学科教授
編集委員 原信夫 医薬品・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター長
編集委員 河村 義子 国立医薬品食品衛生研究所客員研究員
編集委員 長谷民 大阪市立大学医学系総合研究学群分子生物学部教授
編集委員 長田 和美 農薬・食品産業技術総合研究機構食品研究部食品分析研究領域信頼性評価ユニット長
編集委員 庄司 讃彦 農業・食品産業技術総合研究機構四日市研究所（木下つづく）健康機能性チーズ
編集委員 白杉 直子 神戸学院大学人間発達環境科学研究所人間環境学専攻環境科学研究室教授
編集委員 田中 俊彦 神戸学院大学人間発達環境科学研究所人間環境学専攻環境科学研究室教授
編集委員 田村 俊樹 東京農業大学食品科学部食品安全科学専攻食品利用学研究所准教授
編集委員 辻村 英雄 サントリー食品インターナショナル株式会社取締役副社長
編集委員 竹内 琠子 医薬品製剤開発総合機構顧問
編集委員 中江 大 東京農業大学応用生物科学部食品安全科学専攻食品安全科学研究室准教授
編集委員 西川 秋佳 国立医薬品食品衛生研究所安全性検査研究センター長
編集委員 西島 玲子 実験女子大学生活科学部名誉教授
編集委員 林 新明 三栄薬エフ・エフ・アイ株式会社安全性科学部長
編集委員 松本 桂平 国立医薬品食品衛生研究所名誉所長
編集委員 松藤 寛 日本大学生物資源科学部食品生命科学科教授
編集委員 水谷 元 高知県立機能性植物園園長
編集委員 三宅 充明 愛知県立大学健康科学研究科長
編集委員 塚本 飛生 近畿大学薬学総合研究所教授
編集委員 矢野 湘 三重大学大学院地域イノベーション学研究科教授
編集委員 山崎 隆 平成薬科大薬学部教授
編集委員 吉岡 靖雄 大阪大学微生物研究所Biken次世代ワクチン協働研究所特任助教
編集委員 良水 賢一 神戸市立大学薬学部教授

複製をご希望の方へ

本会は下記協会に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写したい方は、協会より許諾を受けて複写してください。
但し、（社）日本複製権センター（協会より権利を再委託）と包括協定権許諾契約を締結されている企業の社員に内部利用権の複写は必要はありません。（社外複製権の許諾は許諾が必要です）。

Repographic Reproduction outside Japan

Please obtain permission from the following Reproduction Rights Organization (RROs) to which the copyright holder has consigned the management of the copyright regarding reprographic reproduction. Obtaining permission to quote, reproduce, enlarge, etc. Please contact the copyright holder directly.

Users in countries and regions where there is a local RRO under bilateral contract with Japan Academic Association for Copyright Clearance (JACC). Please contact Japan Academic Association for Copyright Clearance (JACC).

Address: 9-6-41 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan
Website: http://www.jaacc.jp
E-mail: info@jaacc.jp FAX: +81-3-3475-5619

Users in countries and regions of which RROs are listed on the following website are requested to contact the respective RROs directly to obtain permission.

http://www.jsfcs.org/